

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

## ◎志願状況全体概況

### □一般選抜志願者数は3年ぶりに増加

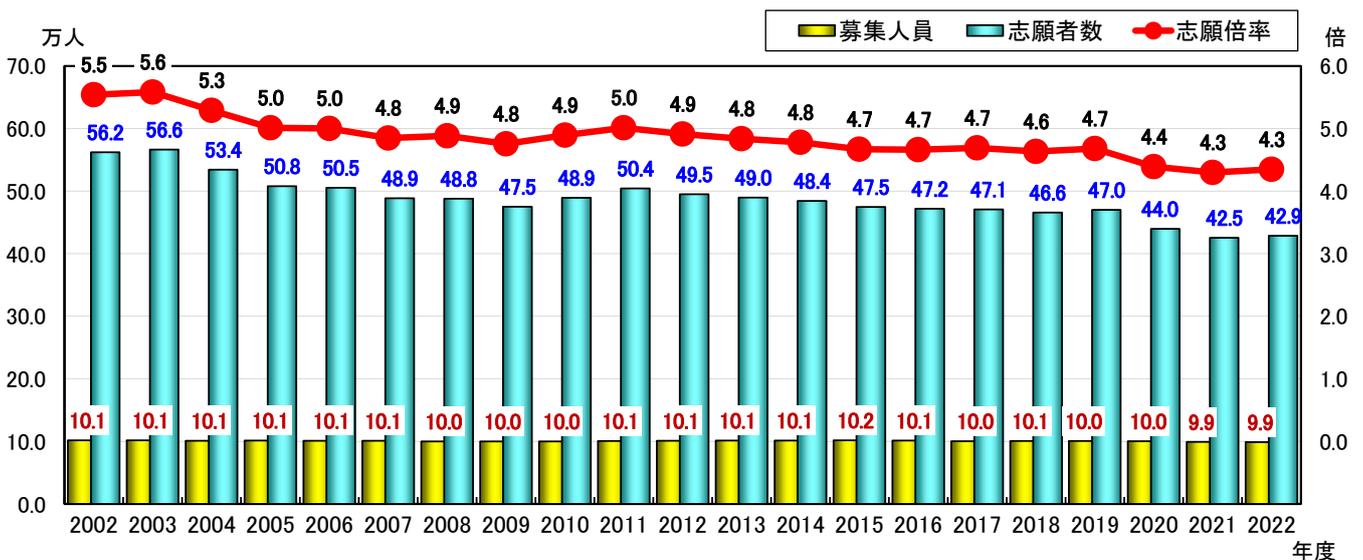
文部科学省が2月22日に発表した2022年度国公立大一般選抜の確定志願状況、及び独自日程の国際教養大、新潟県立大、叡啓大の大学発表の確定志願者数を合計すると432,296人で、前年度と比べて2,733人(101)の増加で、微増ですが3年ぶりに増加でした。募集人員は国公立大全体で415人の微減で、志願倍率は4.32倍→4.37倍とほぼ前年度並でした。

#### 〔設置・日程別志願状況〕

設置	日程	2022年度					2021年度		
		募集人員	志願者数	志願倍率	増減数	指数	募集人員	志願者数	志願倍率
国立	前期	63,637	179,320	2.82	+2,142	101	63,716	177,178	2.78
	後期	12,962	123,633	9.54	+4,880	104	13,201	118,753	9.00
	合計	76,599	302,953	3.96	+7,022	102	76,917	295,931	3.85
公立	前期	16,308	54,643	3.35	-3,535	94	16,198	58,178	3.59
	後期	3,367	39,647	11.78	-2,521	94	3,487	42,168	12.09
	中期	2,349	31,380	13.36	+2,289	108	2,364	29,091	12.31
	独自	378	3,673	9.72	-522	88	450	4,195	9.32
	合計	22,402	129,343	5.77	-4,289	97	22,499	133,632	5.94
合計	前期	79,945	233,963	2.93	-1,393	99	79,914	235,356	2.95
	後期	16,329	163,280	10.00	+2,359	101	16,688	160,921	9.64
	中期	2,349	31,380	13.36	+2,289	108	2,364	29,091	12.31
	独自	378	3,673	9.72	-522	88	450	4,195	9.32
	合計	99,001	432,296	4.37	+2,733	101	99,416	429,563	4.32

※専門職大学を除く。

#### 〔確定志願者数推移〕(独自日程除く)



### □国立大は11年ぶりに増加、公立大は3年連続減少

#### 〔設置別〕

国立大……前期は2,142人(101)の微増、後期は4,880人(104)のやや増加でした。この結果、国立大全体では7,022人(102)の微増で、11年ぶりに増加となりました。共通テストの大幅難化はありま

したが、難関大を中心に成績上位層でも共通テストの得点ダウンが顕著だったことにより、結果として個別(2次)試験の比重がより高くなったことが周知されたことで、強気な出願傾向が見られたことが要因でした。

公立大……中期は2,289人(108)増加しましたが、前期は3,535人(94)、後期は2,521人(94)といずれもやや減少しました。共通テストの900点満点の予想平均点が文理いずれも大幅ダウンし、比較的合格目標ラインが低い大学が多い公立大の前期、後期にその影響が強く出たことが要因と考えられます。一方で、中期はコロナ禍の中での厳しい経済環境を反映して、国公立大志向が高まる中で受験機会を確保したいという動向が表れました。この結果、公立大全体では3,767人(97)のやや減少で、3年連続の減少となりました。

### 【日程別】

前期………募集人員は前年度並ですが、志願者数は1,393人(99)減少したため、志願倍率は2.95倍→2.93倍とわずかに0.02ポイントダウンし、前年度に引き続き3倍を下回りました。

後期………志願者数は2,359人(101)の増加でしたが、後期廃止の大学もあり、募集人員は359人(98)減少したため、志願倍率は9.64倍→10.00倍と0.36ポイントアップし、ほぼ10倍となりました。

中期………志願者数は2,289人(108)の増加で、3年ぶりに増加。募集人員は15人(99)減少で前年度並だが、志願倍率は12.31倍→13.36倍に1.05ポイントアップしました。

独自………三条市立大が分離分割方式(前期・中期日程)となったため志願者数は522人(88)の減少ですが、募集人員も72人(84)大幅減少したので、志願倍率は9.32倍→9.72倍に0.40ポイントアップしました。